vol.404
農政連情報誌

みどりの風

2023
9
令和5年

今月の表紙「稲刈体験」（撮影：大崎　満洲美 様）　第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品

CONTENTS

■くまもと売れる米づくり推進大会を開催
■6月3日から7月3日にかけての大雨に関する緊急要請を実施
■藤木しんや活動報告
■参議院議員 藤木しんや氏コラム
■参議院議員 山田としお氏コラム
■地域農業のリーダー
■中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

政府の規制改革推進会議は、経済社会の構造改革を進める上で必要な規制の在り方について、総合的に調査審議する内閣総理大臣の諮問機関であり、常設の機関として令和元年10月に設置されて以降、これまで3回にわたり答申がなされてきた。今年6月には4回目の答申が首相に提出された。

政府は、「成長と分配の好循環」と「コロナ後の新しい社会の開拓」をコンセプトにした新しい資本主義の実現に向けたビジョンを示し、その具体化を進めるための検討を行っている。

規制改革推進会議では、スタートアップ・イノベーション、「人」への投資、医療・介護・感染症対策、地域産業活性化（農林水産等）、及び共通課題への対策の5つの重点分野を切り口に議論を行った。

提言で農水省が求められた「地域産業活性化（農林水産業）では、①共済事業における顧客本位の業務運営の取り組み、②農協改革の着実な推進、③農協における適切なコンプライアンス・ガバナンス態勢等の構築・実施、④国産小麦の競争力強化等に資する農産物検査の実施、⑤畜舎に関する規制の見直し、⑥卸売市場の活性化に向けた取り組み、⑦eMAFF地図の積極活用、等農業関係で7項目の提起があった。

この中で、農協の自己改革については、具体的な行動が実施され、着実に取り組まれていることは評価できるとした。また、JAが不断の見直しを通じて、自己改革の取り組みを更に深化・発展させ、今まで以上にスピード感を持って、自己改革の取り組みを進めるよう提起した。

くまもと売れる米づくり推進大会を開催

くまもと売れる米づくり推進本部は7月13日、熊本市内で「くまもと売れる米づくり推進大会」を開催しました。

4年ぶりの実開催となった大会には、生産者、JAグループの役職員、行政・米取扱い関係者など、約210人が出席しました。2023年産米集荷、94万俵（1俵60キロ）の目標達成に向け、県下一丸となって集荷推進運動に取り組むことを確認。

主催者として宮本隆幸本部長（JA熊本中央会会長）は、「米を取り巻く環境は、肥料・燃油など生産コストの急激な上昇により、生産現場は非常に厳しい状況にある。JAグループの集荷・販売力の強化と農家の所得向上につながるようさらなる支援・協力をお願いする」とあいさつしました。

同大会には、九州農政局経産部生産振興課の岡部雄治課長補佐や熊本県農林水産部生産経営局の中島豪局長が祝辞を述べ華を添えました。

令和5年度の推進計画では、①県産JA米の信頼確保と地域特性を生かした良食味米作り等の「生産対策」、②実需者への安定供給による再生産価格の確保のための「集荷対策」、③県産JA米の認知度向上と販売促進に向けた「販売促進対策」、④日本型食生活の普及拡大に向けた「食育・消費拡大対策」に取り組みます。

最後に、JA鹿本の普通作部会部会長の中島健作さんが令和5年産の集荷目標の達成に向けて力強い決意表明を行いました。

▲大会で挨拶を行う同推進本部の宮本隆幸本部長

▲集荷目標達成に向けた決意表明を行うJA鹿本普通作部会部会長の中島健作さん

▲「くまもと売れる米づくり推進大会」の様子

6月3日から7月3日にかけての大雨に関する緊急要請を実施

JAグループ熊本と熊本県農業者政治連盟は、7月20日、県知事へ6月30日から7月3日にかけて発生した大雨に関する緊急要請を行いました。

要請を行ったのは、熊本県農政連の宮本隆幸委員長、JAかみましきの田原組合長などの関係者が訪れました。

今回の大雨で被害が大きい益城町や山都町では、かつてない豪雨となり農地への土砂流入や農業用施設の損壊等をはじめ、水稲を中心とした農作物に甚大な被害が発生しています。農家が本来の農業生産を回復し、経営が安定するには国・県による絶大な支援や協力が必要であるため熊本県に対し緊急要請を行ったものです。

JA熊本中央会の宮本隆幸会長は、「今回のような災害では、農業所得の減少や生産意欲減退、さらには離農・廃業が心配される。大雨に関する激甚災害の早期指定や災害復旧の支援について強く要請する」と訴えました。

要請を受けた熊本県農林水産部の千田真寿部長は「激甚災害の早期指定について国へ働き掛けていきたい、また、市町村とも連携して災害の早期復旧に取り組みたい」と応えました。

▲要望書を県に提出する熊本県農政連の宮本隆幸委員長（中央）とJAかみましきの田原要一組合長（左）

緊急要請の内容

1. 激甚災害の早期指定への支援
2. 農地等流入した土砂撤去と農業関連施設の早期復旧支援
3. 被災した農業者等への金融支援
4. 農業共済支払の早期対応
5. 農地・農業用施設等の災害再発防止と自然災害に強い産地づくり

▲木山川の氾濫により水田に土砂が流入（益城町総合体育館南側付近）

参議院議員 藤木しんや 活動報告

Fujiki Shinya activity report

農家の声を国政に！

4つのVision

① 生産現場からの声を国政に届け、実現します

② 食料安全保障の強化の実現を目指します

③ 中小・家族経営、中山間地農業への更なる理解と支援の拡充に取り組みます

④ 地域の拠り所であるJAの取組を後押しします

藤木しんやプロフィール

農林水産大臣政務官2期目（令和4年8月就任）
参議院議員2期目（平成28年7月初当選）

【所属委員会(参議院)】
農林水産委員会
東日本大震災復興特別委員会

【これまでの主な役職】
農林水産大臣政務官
参議院自由民主党　副幹事長
自由民主党　農林部会　副部会長
参議院自由民主党　国対副委員長
東日本大震災復興特別委員会　理事

農家・農業の未来のため全力で頑張ります

JRA日本ダービー表彰式に出席

参議院農林水産委員会にて政務官として答弁

岸田文雄首相に八代特産の晩白柚を送る関係者

JAかみましきの田植え教室にEXILE　ÜSAさんと参加

岩手県JA生産者代表者との懇談会に出席

福岡県豪雨被災地を視察

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの
永田町でも百姓宣言

「令和5年6月からの豪雨災害について」

【早期営農再開と改良復旧に向けて】

令和5年6月からの豪雨災害により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。6月28日には農林水産大臣政務官として、和歌山県及び奈良県の被災地視察に伺いました。「有田みかん」で有名な和歌山県有田市は、24時間雨量が年間平均降雨量の約4分の1に当たる400ミリに達し、みかん畑の園地崩落など甚大な農業被害が発生しました。

また、7月には私の地元熊本県上益城郡をはじめ九州北部、その後、北陸・東北と、日本全土に甚大な大雨被害が及びました。被災による心理的・金銭的負担から、営農意欲の喪失と離農の加速が危惧され、いてもたってもいられず、地元熊本県益城町・山都町及び福岡県、大分県に視察入りし、JA役職員・農家組合員の皆さまと意見交換を行いました。当日は、現状把握にあわせて、生産者の負担軽減に繋がる激甚指定による補助率引き上げの可能性などを議論いたしました。

野村農林水産大臣もこの度の豪雨被害を大変懸念され、①被害状況の迅速な把握②災害応急対策と早期の復旧に向けた対策の実施③対応可能な体制の整備④適時的確な情報提供、に省を挙げて取り組むよう、指示を出されました。

近年、日本各地で毎年のように異常気象による大規模災害が発生しています。現状回復による復旧工事では、より激甚化し再発可能性の高い自然災害に対して、十分な備えとなり得ません。将来の地域の担い手に対して、安心・安全な営農環境を譲り渡すためには、防災・減災機能を強化した改良復旧が必要です。

現在、内閣府ではムーンショット目標8として、2050年までに「激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安心安全な社会を実現」するため、災害に繋がる気象現象自体の回避・軽減を可能とする制御技術の研究開発、そのために必要な国内外におけるルール形成等を検討しています。

長期的には、抜本的な自然災害の発生防止を期待しつつ、まずは目の前の課題に対し、持続可能な農業が可能となるよう、早期改良復旧に繋がる災害対策を検討して参ります。予断を許さぬ気象状況が続きますが、引き続き天候の急変にご留意の上お過ごしください。

▲参議院議員 馬場成志先生と
熊本県益城町・山都町の豪雨災害視察

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの
農政問題に斬り込む

どこへ向かうのか、日本のコメ政策

これまで苦労してきた「生産調整」の取り組みは、一体どこへ消えたのか。生産者、JA、そして政府、党が、声をからして励んできていた事々はどうなったのか。需給ギャップは生じないのか。目標配分は行うのか。未達成者にペナルティはあるのか。達成者への奨励措置はあるのか。今や、それらの議論はないのです。それほどまでに、米農家が、そしてJA、市町村が苦しんできた議論は消えてしまったのです。要は、「これまでの取り組みを踏まえて自主的に考えてください」、「JA、市町村、県域のこれまでの取り組みの実績や、今後のコメ戦略に基づき、それぞれの段階で、判断・決定し、取り組んでほしい」という状態なのです。

永遠に続きかねない米の需給調整について、対策を講じなければならないのは確実です。それに対して、国からの生産調整の割り当てということはなくて、「自らの判断で対処して下さい」、「そのためにも米の生産調整の割り当てを止めたのですよ。これで米価が下がるというなら、皆さんで受け止めてもらうしかないのですよ」、ということになっているのです。とすると、我々は、早急に全体の需給を含めて、政策論議を行わなければなりません。必要なことは何なのか。しっかり考え抜いて、しっかり取り組みましょう。

「米の代わりに何を作るか」、「どう農地を活用して所得を実現するか」徹底して考える。JAや仲間の地域の寄合や、集落の皆さんとも相談する。そして「JAを通じて出荷するから利益が出るよう対策を講じてほしい」と訴え、しっかり成果を実現する。JAには、頑張ってもらって有利な販売戦略と、利益が上がる販売価格を実現しましょう。そして日本の食と農を壊しかねない動きには、しっかり対決しなければならないのです。

▲後援会国政報告にて

地域農業のリーダー

～JA阿蘇青壮年部活動報告～

JA阿蘇青壮年部は5支部（一の宮・産山・西原・長陽・高森）の盟友数130名で活動しています。

婚活活動

主な活動としては、今後の担い手確保のための婚活活動を実施しており、今では地元の社会福祉協議会・JC（青年会議所）・clover（出会い応援団事業）と共同で年間2～3回のイベントを実施し田植え稲刈り体験や、地元商店街でのロゲイニングなどを行っています。

▲婚活での田植え体験の様子

カップリング率は40％前後となりますが、昨年にはこの中から見事成婚まで行きついた農業者もおり、青壮年部としても実施したかいがありました。

▲社会福祉協議会・青年会議所・出会い応援団事業のメンバー

門松寄贈活動・食農教育活動

その他にも、熊本地震以降続けてきた門松寄贈活動を行っており、JA阿蘇館内の本所や中央支所に寄贈しています。また、支部活動においても地域に根差した活動として、景観維持を目的としたゴミ拾い活動やカーブミラー清掃活動、地元小学生を対象とした食農教育活動を行っています。

▲本所や中央支所に寄贈した門松（写真は小国郷中央支所）

▶門松づくりに精を出す盟友

ミニトマト栽培の出前授業

一の宮支部ではミニトマトの栽培出前授業を実施しており、実際に小学校へ出向き土の作り方から苗の定植指導や芽かきのしかたなど、直接小学生と手を取り合い農業の魅力を知ってもらう活動を行っています。

JA阿蘇青壮年部は今後も様々な活動を通して地域農業の維持・発展を行うとともに、魅力ある農業を各地へ発信していき農業の重要性や必要性を消費地に届けていきます。

▲ミニトマトの出前授業の様子

JA中央会

第48回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールを開催

JAグループでは、心と体を支える食の大切さ、国産・地元農畜産物の豊かさ、それを生み出す農業の価値を伝えることで、国産・地元農畜産物と日本の農業への関心・理解を深めてもらう運動である「みんなのよい食プロジェクト」に取り組んでおり、その一環として本年度も作文・図画コンクールの作品を募集しています。

昨年度は県内で作文部門1、188点（135校）、図画部門1、748点（186校）の応募がありました。小中学校の先生方に審査をお願いし、厳正に受賞作品を選定していただき、特別賞のほか優秀賞など合計124作品が選ばれました。

今年度の募集要領は6月下旬にかけて、県内全小中学校へ送付させていただきました。また、JAグループ熊本のホームページにも掲載されておりますのでご覧ください。

（ホームページアドレス＝https://www.ja-kumamoto.or.jp/study/concour/）

▲昨年度の審査風景（作文）

▲昨年度の審査風景（図画）

JA経済連

第44回子飼100円笑店街へ初出展

～県産農産物など消費者へPR～

JA熊本経済連は6月3日、熊本市の子飼商店街で開催された「第44回子飼100円笑店街」に初出展しました。この催しは、地域の活性化を目的として、3カ月おきに開かれています。

ブースでは目玉企画として、お祭りの定番の金魚すくいをミニトマトで再現した「ミニトマトすくい」を100円で行いました。そのほかにも、最高品質のくまもと茶である「湧雅のこころ」を使用したお茶アイスやJA全農の「ニッポンエールグミ」などを販売。ガラポン抽選会も行い、肥後グリーンメロンや県産米のくまさんの輝き、純米かすてらや冷凍米飯を、計35名様にプレゼントし、県産農産物をPRしました。

同連企画広報課の担当者は「地元のたくさんの人に直接PRすることができてよかった。」と話しました。地域の子どもたちも楽しんでくれたようでした。

今後も地域の活性化に貢献する活動を継続していきます。

▶経済連ブースの様子

▶ミニトマトすくいを楽しむ親子

JA共済連

2人に1人はがんに！9月は「がん征圧月間」です

～JAのがん共済でがんへの備えをしましょう～

がんへの備えは大丈夫ですか。がんは、2人に1人がかかるとても身近で危険な病気です。JA共済では9月の「がん征圧月間」に合わせ、がんへの備えを強化する取組みを行っています。

現在のがんは、医療技術の進歩による身体への負担が少ない治療法の普及や、がん患者の生存率の向上などにより、がんになった後の「生き続けるための保障」が必要となっています。

JAのがんの保障はそのようなニーズに応えるため、がん診断共済金や、がんの長期化や再発時に受け取れるがん治療共済金に加えて、先進医療保障を備え、現在のがん治療の実態に合ったものとなっています。この機会にがんへの備えをご検討されてみてはいかがでしょうか。

詳しくは、お近くのJA窓口までお気軽にどうぞ！

農政連

「熊本県農業政策確立対策募金運動」へご協力をお願いします。

～守ろう！熊本の食　つなごう！未来のこどもたちへ～

これまで「熊本県農業政策確立対策募金」については、生産現場を踏まえた農業政策の実現を目指し、県下JAグループの正組合員・役職員の協力のもと取り組んできました。

このような中、燃油などの生産資材価格高騰対策として、「施設園芸等燃料価格高騰対策」をはじめ、「肥料価格高騰対策」が新たに措置されるとともに、畜産・酪農対策関連については、配合飼料価格および輸入粗飼料価格の高騰対策として、「飼料価格高騰緊急対策」や「飼料自給率向上総合対策」などの予備費や補正予算による支援策が措置されるなど、対策本部が実施した運動が一定の成果につながったものと考えられます。

今後の農政の動向については、政府・与党による「食料・農業・農村基本法」の改正に向けた議論がなされる中、農畜産物の価格転嫁対策を含めた農業の持続的発展に資する具体的施策の実現に向け、JAグループ一体となって運動を実施していかなければなりません。

さらには、消費者が我が国の食や農の実態を「認知」、「理解・共感」し、最終的には国産農畜産物の選択・購買など、「行動変容」につなげる「国消国産」運動を展開していきます。

県下のJA・連合会等を通じて集められた募金は、食料安全保障の強化をはじめ食料・農業・農村等に関する県民理解の促進、各団体との連携強化、政府・国会等に対する要請活動等の経費に充てられます。

県下JAグループの正組合員、役職員の皆さまには、本運動の趣旨をご理解いただき、今年度もご協力をお願いいたします。

あとがき

「棚田の農作業風景」

撮影：加悦　信輔 様

第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

最近は映画館に行っていないなあと思い、近くのシネマの上映状況を検索してみると、アニメが多く上映されています。春先に話題になったバスケットボールを題材にした「スラムダンク」は、日本では100億円をこえる興行収入を上げていますが、お隣の中国では、公開から4日で80億円の興行収入と1000万人を超える観客動員を記録しました。この映画が中国で爆発的に流行した理由の一つに、中国でケーブルテレビが普及した時期にアニメとしてテレビ放映されたことが大きいとの見方をされています。この物語を通じて貫かれているのは「青春」。青春はがむしゃらであり、愚かであり、きらきら輝いているものであるらしい。この映画を観て熱血を感じるのはまさに青春の中にいる人で、この作品を観て涙を流すのは青春をすでに失い、かつて輝いていた人々らしい。

スラムダンクの登場人物の一人に三井寿がいますが、名前の由来になった福岡の日本酒が、品薄の状態になっています。

発行／熊本県農業者政治連盟

熊本市中央区南千反畑町2-3　電話 096-328-1284
編集責任者／中村　隆宏
●発行日／令和5年8月15日・毎月1回15日発行
●定価／1部50円（但し、会員の購読料は会費の中に含む）